

きぶのきと

NO.40 月刊

第九輯 系譜誌 第三號

昭和廿六年十月一日發行 (非売品)

發行所 岡山県宇治郡吉備町滝瀬七〇七 宇垣方

吉備 観光協會

板倉家系譜 (庭瀬藩主) 家紋左廻り三ツ巴、丸に劔、酢醬草之用中。

源義家 鎮守府將軍 — 義國 帶刀長 — 義康 足利陸奥守判官 — 義兼 足利總介 — 義氏 左馬頭

八幡太郎 義親 義朝次郎 初板倉姓 義春 三郎三郎 義行 從五位下 武藏守 右馬頭 從五位下

義季 又三郎 判部大輔 直頼 中務太郎 治川太郎 引附頭人 義行 從五位下 武藏守

滿頼 從五位下 左近將監 義俊 左近將監 九州探頭 義鏡 次郎 義亮 治川左近將監

賴重 義亮 三男 法名 清善 三河國額田郡小美村三住レ 好重 八右門 松平大炊助 好景 三住レ

始 治川姓 後手 板倉 三復シ 八右門 松平大炊助 忠定 三住レ 永祿四年四月十四日 三河國深

好重 女子 井伊兵部少輔 家臣 新美作右門ノ妻 忠政 孫兵工 板倉孫作 勝戸ノ祖

忠重 左右門 松平大炊助 好景ノ向ノ主 殿 伊忠 三住レ 初 繼家シテ 香譽宗哲ト云レ 徳川家康ニ任ヘ 京都所司代 伊賀守 寛永元年四月廿九日卒 長

勝重 甚平 四郎左門 母 八老次ノ女 初 繼家シテ 香譽宗哲ト云レ 徳川家康ニ任ヘ 京都所司代 伊賀守 寛永元年四月廿九日卒 長

定重 喜藏 天正九年卒 己三月廿三日 松平伊忠ニ從ヒ 高天神ノ役ニ 戰死 年廿八 法名 智伯

養女 伊東若狹守長昌ノ室 實 中島兵五郎重次ノ女 母 八栗生 筑前守 永勝ノ女 初 中島兵五郎重次ニ嫁ス 一男 二女アリ 重次討死シテ 後手 勝重ニ嫁ス 一男 重好 中島家ヲ

養女 榎小大夫ノ室 小大夫 八牧野右馬丞ノ室 客人ニ 養 野備前守ノ家ニ 母 八前ニ同じ 結シテ 二女 勝重ノ妻 長女トナル

重宗 始 重統 京都所司代 五万石 下總國園宿ニ治ス 重卿 備中 松山城主 五万四千石 始祖

周防守 從四位上 左近衛右少將 明曆二丙申年上旬 重形 上野國安中城主 始祖

朔日 病死 法名 栴檀院 殿 秀善 源俊大居士 三万石 老中

重昌 守右門 從五位下 内膳 正一万八千石 三河國額田郡深溝ニ治ス 又 寛永十五年 島原ノ亂ニ

戰死ス 五千石 實 山崎河守直友ノ女 早女 右室 林源右門 勝原吉定ノ女

女 宇藤孝四郎 重能ノ室 重能 北ニテ 徳山五兵衛 直政ニ嫁ス

女 河村善次郎 重久ノ室

女 戸田半平 老定ノ室

重六 權七介 十三郎 市正 從五位下 御側衆 女 池田豊前守政周ノ室

六千石 元禄十三年七月 下野國芳賀郡領 重冬 宗家 重卿ノ子 重常ノ養子トナル

女 小笠原左三門 尉 政信ノ室 寛文十三年 壬十月十七日 卒 法名 春松院 天窓 清梅大姉 母 八板倉 河波守重郎ノ女

女 溝口 豊前守 信勝ノ室 寛文七年 丁未六月廿九日 卒 法名 南静院 松嚴 妙清大姉 守正 休ノ二男

女 石谷 十歳 貞請ノ室 (養女)

重直 甚太即 從五位下 筑后守 五千石 宛行 勝該 延宝四年八月 狂氣シテ 細川越中守 宗孝ヲ 傷ツケ 所領地ヲ 没收セラレ 家絶ス

重昌 切名 長命 主水 佑老 中内膳 正 從四位下 侍從 元和三丁巳年 十月廿四日 江戸ニ生ル 下野國

鳥山城主 五万石 寛文十三年 五月廿五日 卒 行年 五十七 夫 母 八林源右門 勝原吉定ノ女

重直 小出伊勢守 藤原吉親ノ女 慶安四年 六月五日 卒 法名 湛志院 月窓 了心大姉

重良 長吉 左京 三十一郎 能登守 從五位下 伯耆守 母 八吉親ノ女

寛永十三年 某日 生ル 病氣ヲ 引籠リ 元禄十五年 十月十七日 江戸ニ卒ス 行年 六十

重澄 久米之助 新右門 母 八重良ニ 同ジ 万治元年 戊戌年 九月十四日 卒 三才 靜意院 清大禪定門

重直 甚太即 從五位下 筑后守 五千石 宛行

女 小笠原左三門 尉 政信ノ室 寛文十三年 壬十月十七日 卒 法名 春松院 天窓 清梅大姉

女 溝口 豊前守 信勝ノ室 寛文七年 丁未六月廿九日 卒 法名 南静院 松嚴 妙清大姉

女 石谷 十歳 貞請ノ室 (養女)

重直 甚太即 從五位下 筑后守 五千石 宛行

勝該 延宝四年八月 狂氣シテ 細川越中守 宗孝ヲ 傷ツケ 所領地ヲ 没收セラレ 家絶ス

重昌 切名 長命 主水 佑老 中内膳 正 從四位下 侍從 元和三丁巳年 十月廿四日 江戸ニ生ル 下野國

鳥山城主 五万石 寛文十三年 五月廿五日 卒 行年 五十七 夫 母 八林源右門 勝原吉定ノ女

重直 小出伊勢守 藤原吉親ノ女 慶安四年 六月五日 卒 法名 湛志院 月窓 了心大姉

重良 長吉 左京 三十一郎 能登守 從五位下 伯耆守 母 八吉親ノ女

寛永十三年 某日 生ル 病氣ヲ 引籠リ 元禄十五年 十月十七日 江戸ニ卒ス 行年 六十

重澄 久米之助 新右門 母 八重良ニ 同ジ 万治元年 戊戌年 九月十四日 卒 三才 靜意院 清大禪定門

重直 甚太即 從五位下 筑后守 五千石 宛行

女 小笠原左三門 尉 政信ノ室 寛文十三年 壬十月十七日 卒 法名 春松院 天窓 清梅大姉

女 溝口 豊前守 信勝ノ室 寛文七年 丁未六月廿九日 卒 法名 南静院 松嚴 妙清大姉

女 石谷 十歳 貞請ノ室 (養女)

重直 甚太即 從五位下 筑后守 五千石 宛行

勝該 延宝四年八月 狂氣シテ 細川越中守 宗孝ヲ 傷ツケ 所領地ヲ 没收セラレ 家絶ス

重種 重道、号ハ萱軒深奥、辨之助、内膳正、兵庫頭、石見守、三河國重原城主、始祖。—— 重寛 三万石

女 高木主水正正血、室。 室ハ一柳印兵工直次ノ女、享保十三年丁未九月十一日卒、貞壽院全剛了伴大姉。

女 加根 杉平對馬守昭重ノ室、室永七庚寅年五月廿三日卒、靈起為院妙英日嚴大姉。

辰之助 加藤織部正、養子、早生。

養女 中宮前内府通政藤中、室ハ祖父重昌ノ女。

女 相馬出羽守貞胤ノ室、室ハ高木主水正正血ノ女。

女 房 相良志摩守頼福ノ室、重種ノ養女、母ハ家女、貞享三年五月十日卒、涼雲院花窓為蓮大姉。

女 戶田孫十郎老澄ノ室、室ハ養女ト云フ。

重宣 從五位下、孫中守初メ重綱(三十九)切名三十郎改メテ在京、寛文四年十月十日江戸ニ生ル、叔父内膳正。

重種隱居、天和三年五月十八日上總國高麗城主高三万石、重種ノ子、重寛ニ三万石分知ス。

母ハ池田信濃守恒元ノ女、重宣ハ貞享元年八月廿日卒、二十才、安養院茶室羽源山火居士。

重雄 切名虎之助、後中守在工門、父重良通室中、妾腹ニ生ル、五百石知行、元文元丙辰年七月廿日卒。

勝春 市之丞、四百石知行、明和六年五月廿六日卒。 靈輝院。

大雄院臥山源龍大居士、室ハ某室、曆五年八月十二日卒、半輪院葉天智秀大姉。

結室 某、寛政三年八月十八日在下、妙蓮院一乘清台大姉。

勝秋 五百石知行、明和五年十月十六日卒、即仙院丹全源堂大居士。

女 十世 母ハ格飼生左工門ノ女。

女 某 前二回シ、室永七庚寅年八月八日生。

重宣 實ハ小出信濃守藤原英知ノ三男、初メ重清、從五位下、元禄十三年二月庭瀬藩主二万石、正徳三年二月十日卒、四十八才、庭瀬藩ノ始祖、母ハ家女、山崎氏。

室ハ山内右近大夫豊定ノ女、一系譜ハ山内大膳亮藤原直久ノ女ト云フ、元禄八乙亥年八月十九日卒。

重高 卒、天祐院桂光貞花大姉、結室、万、松平上野介源近栄ノ養女、延宝四年九月七日生、享保七年寅年九月十二日卒、四十七才、崇春院妙壽日慶大姉。

女 早生 母ハ山内大膳亮ノ女、上野介ノ女。

熊太郎 元禄十三年卯年九月六日江戸ニ生ル、室永元乙酉年六月廿二日卒、七才、本子幼瑞童子、母ハ松平。

昌信 母ハ熊太郎同ジ、從五位下、因幡守、初メ重宇、幼名豊次郎、改メテ右近、譜岐守、元禄十三年四月廿六日庭瀬ニ卒、三十一才、室ハ加藤遠江守藤原宗定ノ女、子ナラシテ誰別ス、側室ハ京都人、宮本在兵工ノ女、享保十五年十月廿日卒、不斐院三位牌。

女 崇 母ハ側室京都人、安田半在工門ノ女、元禄十六癸未年四月十八日生、室永五年九月十三日庭瀬ニ卒、三行年五才、不斐院ニ葬ル、隨法院好栄日仙大姉。

女 加代 母ハ松平上野介ノ女、内藤下總守正敬ノ室、室曆八戊寅年十月十日卒、行年五十二才、晴雲院老譽心月大姉。

女 富 母ハ崇同ジ、室永五戊子年正月廿七日生、正徳五乙未年三月二日卒、行年八才、連得院妙有日龍童女。

女 五郎 母ハ家女安田氏、正徳二壬辰年四月十八日生、同三癸巳年八月十五日卒、二才、不斐院ニ葬ル、華台院永芳童子。

昌信 豐之助 母ハ側室ハ宮内省在兵工ノ女、享保九年五月十六日生、同年九月十日卒、不斐院ニ葬ル、明德院幻化知志。

勝興 從五位下、攝津守、幼名右近、母ハ前二回シ、享保十一年七月十日庭瀬ニ生ル、寛政八年七月四日江戸ニ卒、行年七十五才、室ハ植村出羽守源家敬ノ女、延享四年二月十一日卒、廿一才、最淨院正念妙通大姉、經室、園、植村内先妻ノ妹、延享五年七月八日卒、廿才、蓮老院淨刹心清大姉。

女 苗代 堀大膳亮直著ノ室、室曆六年五月十日卒、廿八才、勝仙院瑤台靈光大姉。

女 幾 後中若ト云フ、石川阿波守惣恒ノ室、寛延三年十一月二日卒、廿一才、淨壽院妙遠日仙大姉、母ハ前二回シ、母ハ半ト云ヒ庭瀬ニ住ス、後中東都ニ赴キ、願ニヨリ枚浦兵七ニ嫁シ、生涯五人扶持、芝手、丁町家ノ女ト云フ。

勝興

勝志

從五位下、主水正、幼名鶴吉、母八家敬ノ女、天明五年正月五日卒、四十一才。

④

室八重、田攝津守源資俊ノ女、室曆元年生、明和六日五年十月七日卒、清宮院妙空日如大姉、結室美喜、校倉美濃守源勝武ノ女、陽中松山城主、天明二年四月廿六日卒、三十二才。

淨園院奇峯京雲大姉

勝紀

母八家女東都ノ人、大宮氏早生、安永三、五年十月廿三日延瀬三卒、二十五才。

女里

大久保兵門守教傳ノ室、母八前、同ジ安永元年生、辰十二月八日卒、廿三才、大連院能信素大姉

庄次郎

早生、母八前、同ジ、室曆二年、中、年、延瀬三生、同三、四年正月廿六日卒、枯林寺ニ葬、廿七才。

女皆

永井左門尚綱ノ室、母八前、同ジ、安永六丁酉年八月二日卒、廿三才、室珠院月桂妙光大姉

勝職

基次郎、後、子、六、在、工、門、至、親、上、改、八、巨勢伊豆守至忠ノ養子トシ、天明六年九月十日卒、廿一才、正聚院運譽載航得性大居士

女滿勢

早生、母八東都ノ人、關氏、室曆十二年癸未四月九日生、明和三年丙戌六月三日卒、貞了院妙靜白照聖女

女登志

早生、母八側室、東都ノ人、西山氏、明和二年乙酉八月十八日生、同三年丙戌十二月八日卒、靈知院妙老日解聖女

勝喜

從五位下、主水祐、幼名ハ利次郎、母八家女關氏、明和乙酉年十月十七日江戶ニ生ル

⑤

天明五年乙卯年三月廿四日、勝志ニ養嗣家督ヲ継グ、天保十三年癸卯二月十七日江戶ニ卒、七十八歳。

女富貴

又、益、松平寛之進信主ノ室、初、校倉主稅助ニ嫁、離縁ス、母ハ西山氏

女美代

安永四乙未年正月七日生、同七年正月十四日大、玉芝院南口幼露大童女、母ハ西山氏

勝資

虎三郎、母八側室東都ノ人、高橋氏、從五位下、戦中守左京進、又、在、京、亮、寛政六甲寅年十一月十九日生、文化三乙卯年三月十九日、勝氏ノ養子家督ヲ継グ、天保三年辰年十一月廿一日病ニリ、隠居ス、号ヲ愚山ト云フ、嘉永元年辰年八月十七日江戶ニ死ス、五十四才。

⑦

室ハ朽木上佐守綱方ノ養方ノ妹、文政九年十月八日卒、三十一才、美妙院兼合貞好大姉。

勝喜

勝進

春之進、後、子、武部、母八側室東都ノ人、藤堂家ノ臣松平綱右エ門吉次ノ女

天明六年壬午年九月廿二日生、享和三癸亥年正月十八日病ニ隠退シ文化六己卯年卒、二十四才、唯心院殿清中涼淨大居士

勝氏

輝次郎、輝之進、從五位下、主水祐、母八側室松平氏、天明八甲申年三月六日生、享和三癸亥年正月十八日勝喜ノ家督ヲ継グ、文化元甲子年十一月八日卒、行年十七才、山室六堀田攝津守ノ女、文化元年婚、引受、十、三、勝氏死ス、他ニ嫁、ガシム。

⑥

不年婚、引受、十、三、勝氏死ス、他ニ嫁、ガシム。

峯次郎

母八前、同ジ、早生、寛政三年癸卯四月廿二日生、同五年癸丑十二月二日卒

繁太郎

母八前、同ジ、寛政四年壬子年十月四日生、同五年癸丑年十二月十日卒、妙涼院理覺日吉聖女

女品

母八側室高島平右衛門ノ女、寛政七乙卯年四月十七日生、文化十三己卯年九月廿八日阿部七学在信ノ室、天保十四癸卯年五月某日卒、法号不詳

勝貞

鎮之進、母八側室東都ノ人、平井氏ノ女、勝資ノ養嗣家督ヲ継グ、利之丞ト改ム

③

享和元年辛酉年四月三日江戶ニ生ル、嘉永元年辰年三月廿日隠居シ茅山ト号ス

女全

母八品、同ジ、享和二年六月十一日生、文化三丙寅年正月十九日卒

勝豊

鎮之進、後、子、仲、上、改、八、母八側室東都ノ人、根來共力校浦福一郎ノ女、文化元甲子年十月朔日生、文化十四丁丑年三月廿日勝資ノ養子トシ、文政七甲申年鎮ニシテ家臣トシ、五百石知行、明治元年十月六日卒、六十五才、室ハ校倉甲斐守ノ女

女由

母八前、同ジ、早生

女町

母八東都ノ人、側室西村氏、文政八乙酉年四月十八日卒、十五才

女駒

母八不明、文化十三丙子年六月廿二日生、文政五年壬午年十二月十三日卒、妙行院

④

猿之進、母八不明、文政三乙卯年三月三日生、天保十三己卯年五月十日、護上ノ庭、顯ニ任ス、文久三年壬戌二月七日卒、波川姓ヲ留メ、四十五才

愛勝妙因聖女

文化三丙寅年八月四日生、同年十二月廿七日卒

鐵太郎

岩太郎、年寄、役、百石知行

妙解院

鐵太郎

鐵太郎

岩太郎、年寄、役、百石知行

妙解院

鐵太郎

鐵太郎

岩太郎、年寄、役、百石知行

鐵太郎

岩太郎、年寄、役、百石知行

女鶴 後千政多子代母不詳。文政元年五月廿九日生。下終國舟橋大神宮神務富氏三嫁。富氏死去シテ淨居シテ保十三生。寛永十一年十月嶋田彈正三再嫁ス。

鉄之進 母不詳。文政三庚辰年十月廿日生。同四年巳年四月十日夭。河月大童子。

女琴 後千政多子代母不詳。文政三庚辰年十月廿日生。弘化二年五月廿日。小出宗之助三嫁。後千政多子代母不詳。文政五年十二月廿四日生。弘化三年六月二日。父保右近將監三嫁。安政元年庚午冬。誰縁淨居ス。

鑑之進 母不詳。文政七甲申年十月廿九日生。同九年正月十九日夭。妙心院智英日員大童子。

銀之進 母不詳。文政十四丁亥年九月十五日生。天保元年舟橋大神宮大宮司伯禰田升方。養子トナル。後千富大膳。又中務ト改ム。

女富 母不詳。文政十三巳年十月廿日生。同十三庚辰年六月三日卒。朗岳院知旭日秀大童子。

成之進 母不詳。天保三年辰年五月廿五日生。同四年巳年四月十日卒。晴雲院。

勝敬 満進。勝義ト改ム。母八松木上佐守綱方。養方ノ妹。文政五年午年五月五日。江戸ニ生ル。勝貞ノ弟トシテ弘化三年六月廿七日卒。廿四才。誰別ス。

慎次郎 母八前。同ジ。文政七甲申年三月七日。江戸ニ生ル。同八乙酉年六月廿日夭。玉雄院英山切意禪童子。

備之進 母八側室三村氏。文政十三巳年八月十五日。江戸ニ生ル。天保三年辰年五月廿九日夭。玉蓮院自得日兼大童子。

女傳 母八前。同ジ。天保元年二月十六日生。天保二年甲午年十月十八日夭。雪宮院智岳切意童子。

千代松 母八側室某。天保十巳亥年生。同年六月夭。連知日院。

男某 母八側室某。天保十巳亥年二月廿五日生。翌廿六日夭。切老院道惠大童子。

鏡 母八側室某。天保十巳亥年五月廿七日。同年七月十日夭。祥雲院桂月禪童子。

女判若 母八側室。歌。弘化三年午年九月廿日。高日生。嘉永二年酉年十月十七日夭。清休院。

勝成 從五位下。備次郎。室八宮藤對馬守信由。二男。母八松平伊豆守信順ノ女。文政四年巳年三月廿五日生。勝貞ノ家留ヲ継グ。天保元年六月廿五日。江戸ニ北ス。行年廿八才。

勝全 從五位下。攝津守。銘之進。忠義。母八側室某。名八浪。室八酒井志守守忠。恒ノ二男。文政十三庚辰年十一月六日生。勝成ノ家留ヲ継グ。嘉永三年五月七日。庭瀧ニ赴ク。安政五年八月廿二日卒。二十九才。室八某女。明治三十九年八月十三日卒。

勝弘 攝津守。明治四年五月七日卒。室八清妙院。明治四十四年二月七日卒。

女。切老院。早。慶應四年八月廿四日夭。

女。桂華院。早。明治三年八月廿四日夭。

勝鏡——勝考(神戸市普合尾二位ス)

備考 ●印は枯林寺に靈印あり ×印は墓標がある。(第六輯 支配者篇 参照)

○ 横田氏三家 (戸川氏家臣)

○ 横田武右工門 盛幸 天保四年九月廿日生 龜三郎 慶應三年一月十五日生 (在不妻院墓石)

妻 美登 花五年六月十六日死 明治九年九月廿日死 智忠 明治五年十一月十日死

○ 横田幸右工門 母。治。仁三郎 志茂 安政三年二月十三日生 不詳 明治十九年一月十三日死

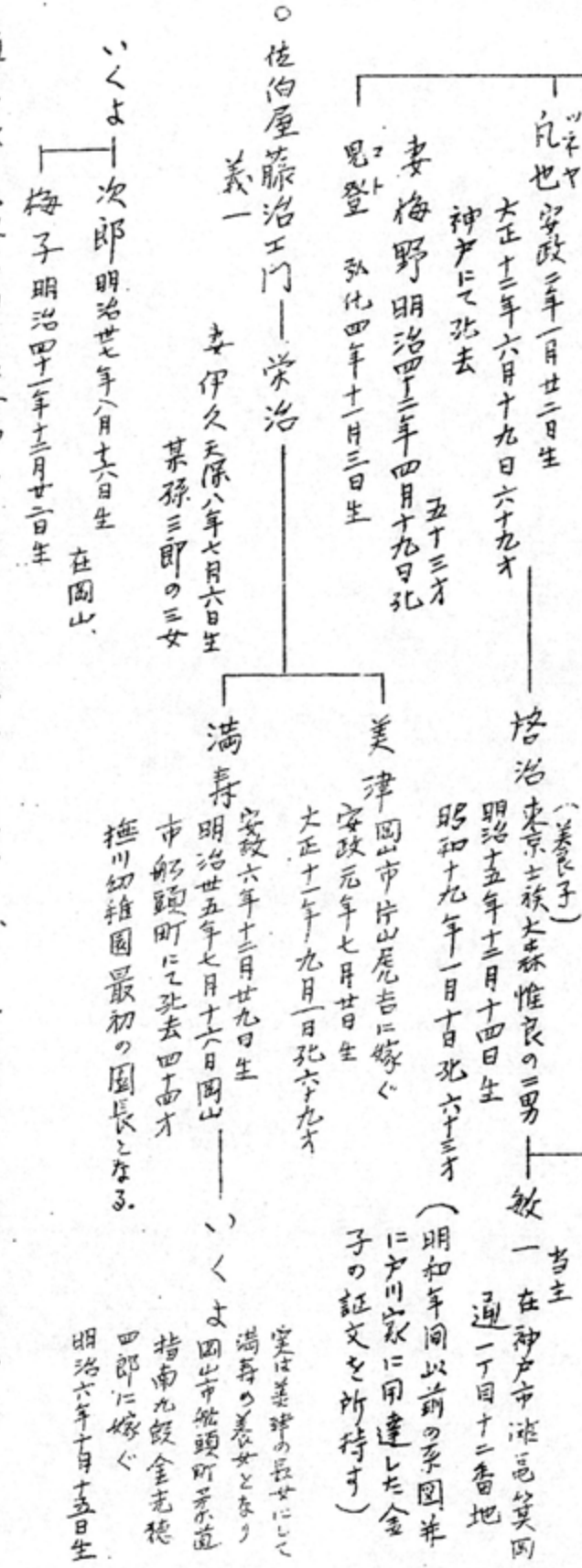
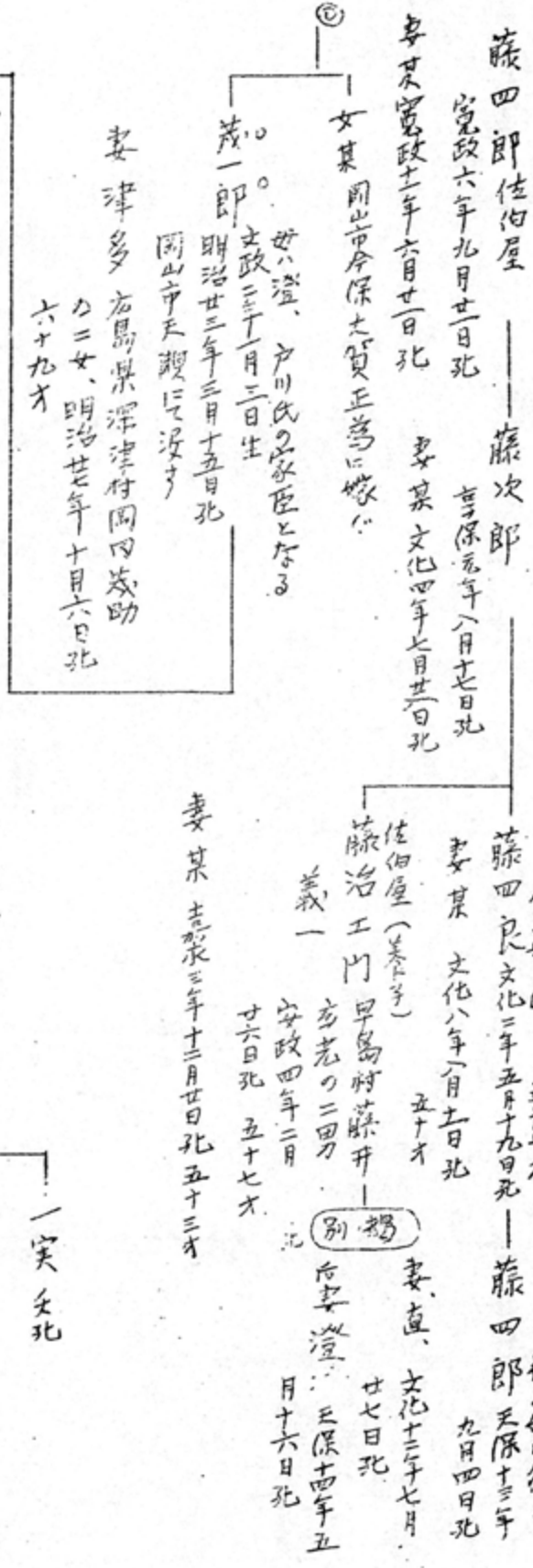
○ 横田雄右工門 盛良 嘉永三年九月九日死 傳造 明治八年三月十日死 雄 明治廿八年八月廿二日死 不詳

妻 某 以信院 天保十四年九月廿九日死 妻 良川院 明治五年九月廿二日死 妻 夕力 明治三年三月十五日死 (在不妻院墓石)

女 某 貞老院 文政七年十月十三日死

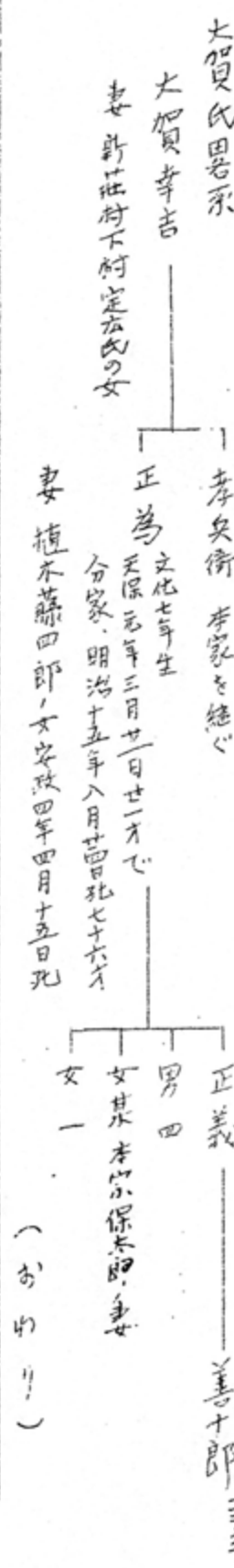
見町土族能一川俊一郎宅に 三人の子を連北々老山市状 移了

○ 植木氏畧系 (戸川氏家臣)



植木家の先祖は備中猿掛城主庄為次郎の一族にして美作赤田城主植木秀長の末葉である。

秀長は天文三年松山城主と野民部大輔信孝を攻め功あり、後ち毛利氏に滅され子孫は備前の般若郡佐伯御に流轉し數十代の後備中郡宇野撫川御に移る。よつて屋号を佐伯屋とす。屋敷は採り四九番地田圃道に面した北側に之の間口五間の土蔵造りである。藩政時代には戸川氏に仕へ藩札の御用を勤めた家柄であった。満寿の時代に親戚に當り岡山市今保七五番田地大賀善十郎に譲り岡山へ移つた。現在は准波茶次郎の所有に歸し中野文雄が住居している。この大賀家は屋号を宗屋といひ昔は回漕向屋を営み地方での豪商であった。善十郎の祖父を正高といふ、この人には孝兵衛といふ兄弟がいた。この次郎は正高の長子である。祖父正高は常に節儉を旨とし家計を顧みこのをもうけた。よつて善十郎はその長男に生れた正義の長子である。祖父正高は常に節儉を旨とし家計を顧みこの時巨万の富を畜積して大賀家の基礎を築いたものである。又熱心な日蓮宗の信者で明治十五年八月廿四日七十才で没す。その後八回に亘つて房産山に参詣した。岡山市の多判蓮日寺の宝蔵を建立したことは有名である。たゞ、この建物は惜しくも戦災に遭つて焼失してしまつた。



都窪郡吉備町庭瀬二九一
吉備木工有限公司
 電話 吉備局 一五七番
 一五四番

ホンダモーター
 サービスステーション
平松モーターズ
 都窪郡吉備町中田